

2014/8/1

しろひげ@Kurobane です。

8月になりました。

当地では、いつの頃からか新盆、つまりは7月13日に亡き人を弔う習わしとなっています。

お盆の前日の夜、私たちは5年前の七夕の日に、卒然として消えていったNさんの思い出を、  
蛍を追いながら、皆で語り合おうと決めていました。

郊外の山間の古民家に集まり、幽玄な闇の明滅で故人を偲ぼうという趣向でした。

その3日前に私は、もう一人の友人Eを突然喪い、その現実をまだ自分のものとして受け入れることが出来ませんでした。

新たな死の悲嘆を鎮められない私は、闇夜に舞う蛍の光にNさんとともに、Eさんの魂も見つけようと心ひそかに決めていたのです。

Eさんは、60年代末に起こった変革の嵐の中で大学を追われ、その後、進路を変えて弁護士になった私の1年先輩です。

私に志を持つこと、思い描ければ達成できることを教えてくれた、大切な人でした。

ところで最近、“親切過労死”という言葉を知りました。

そういえば、NさんもEさんも、相手が恐縮するほどいつも心優しく、親切な男でした。

まわりに多くの敬愛者を集めた彼らは、あまりにやさしいデリカシーとサービス精神の代償に、短い生を余儀なくされたような気がしてなりません。

その夜、田んぼの上には、か細い光の尾を曳きつつ蛍が何匹も飛び交っていました。

用水路や畔の草むらにも、数え切れないくらいの瞬きが散らばっていました。

短命の蛍に老いはなかるべし          安住敦 儂い死と幻想的な生が綾なし発光する天折

の蛍たちは、NさんとEさんの魂が舞う姿であり、淡く甘美な記憶そのものでした。

世界の各地で、無益で残酷な殺戮が続いています。

国を問わず、有名無名の生を記憶に刻み直す夏にしたいものです。

平和と未来への思いがこもごも語れるこの月が、皆さんにとっても新たな鎮魂と決意の

日々となりますように。

黒羽根整形外科

黒羽根 洋司